

科目責任者 花田 和彦（薬物動態学研究室）

■ 教育目的

適切な薬物治療を責任を持って提案できるようになるために、代表的な感染症の病態、診断および治療に用いられる医薬品に関して学び、治療アウトカムを改善させるための必要な情報を自ら判断できる能力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、YD-③】

■ 学習到達目標

1. 感染症の治療に対する基本的な考え方を習得し、概説できる。
2. 主な疾患の病態とリスク因子を把握し、治療のゴールと標準治療を概説できる。
3. 主要疾患の病態・原因微生物に応じた適切な薬剤選択とその根拠を説明できる。
4. 抗菌薬の用法・用量を決定するための PK/PD の基本的概念を説明できる。
5. 抗微生物薬の適正使用を理解し、医薬品使用上の注意、モニタリング計画を説明できる。
6. 計画した治療が機能しない要因を列挙し、解決する道筋を立てることができる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：講義プリントに目を通しておく（20分以上）。微生物学や薬理学で学んだ病原体や抗微生物薬の内容を復習しておく。

復習：模擬症例に応用することで理解を深める（20分以上）。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	感染症治療総論 1	感染症治療の原則、発熱の原因	C8(1)-①-1
2	感染症治療総論 2	抗菌薬の適正使用、 Pharmacokinetics(PK)/Pharmacodynamics(PD) 理論	E4(2)-①-6 E1(1)-①-6
3	感染症各論のはじめに	咽頭炎、中耳炎、ワクチンの一部、副鼻腔炎、百日咳	E2(7)-①-2 E2(7)-③-3,10
4	中枢神経系感染症	髄膜炎、脳炎	E2(7)-③-6
5	尿路感染症	膀胱炎、腎盂腎炎、症例解析	E2(7)-③-4
6	呼吸器感染症 1	市中肺炎	E2(7)-①-1, ③-1
7	呼吸器感染症 2	抗酸菌症：結核、非結核性抗酸菌症、ハンセン病、胸膜炎	E2(7)-③-1
8	骨髄炎、関節炎	骨髄炎、感染性関節炎	
9	皮膚・軟部組織感染症	伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎等 蜂窩織炎、壊死性筋膜炎、皮膚真菌症、カンジダ症	E2(7)-③-7 E2(7)-④-1,6
10	特別講義	感染制御、感染治療と薬剤師：専門薬剤師による	F(2)-⑥-4
11	循環器系感染症	心内膜炎、敗血症、カテーテル関連血流感染症	E2(7)-③-8
12	院内感染、薬剤耐性菌感染症	院内肺炎、MRSA、VRE、SPACE カルバペネム系抗菌薬の適正使用	E2(7)-②-1 E2(7)-③-9,10
13	免疫不全と感染症	予防投与、重複感染、深在性真菌症、原虫感染症	E2(7)-①-2, ④-2 E2(7)-⑤-1,2, ⑥-1
14	性感染症、HIV 感染症	梅毒、淋病、クラミジア症等、HIV 感染症	E2(7)-③-5, ④-5
15	腹部感染症	急性下痢症（急性胃腸炎）：（ウイルス性下痢、病原性大腸菌感染症等）、偽膜性大腸炎、腹腔内感染症	E2(7)-③-2 E2(7)-⑥-2

■ 授業分担者

花田和彦（No.1～5, 15）、外部講師（No.6～10）、高橋雅弘（No.11～14）

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

期末試験（90%）および授業態度・特別講義レポートなど（10%）で総合評価を行う。

■ 教科書

講義プリント

■ 参考書

青木真：レジデントのための感染症診療マニュアル 第3版、医学書院（2015）

Pharmacotherapy: A pathophysiological Basis of Therapeutics, 9th ed, McGraw-Hill (2014)